

## ポーランドの WONCA に出席して

板東 浩

〔日本プライマリ・ケア連合学会誌 2011, vol. 34, no. 4, p. 339-341.〕

日本プライマリ・ケア (PC) 連合学会は、WONCA の一員として国際的な指導的立場を担っている。2005 年の京都 WONCA 大会は諸外国から高く評価され、その後も、本大会の話題が WONCA 会員から出るなど、人々の記憶に鮮明に残っているようだ。

以前は国際交流委員会で、近年は広報委員会でお世話になっている筆者は、従来 Ibero-American や African, Europe など各地域の WONCA に参加し報告してきた。最近ではアルゼンチン 2006, ナイジェリア 2008, トルコ 2008, プエルト・リコ 2009 などがある。

第 17 回欧州 WONCA 大会がワルシャワで 2011 年 9 月 7~10 日に開催され、テーマは「Family medicine-practice, science and art」であった。同大会で発表を行い大会の概要を把握できたので、報告する。

## 1. ポーランド

ポーランドは東欧にあり、国名は pole (草原) の land (土地) に由来するとされる。同国の西にはドイツ、東にはロシアが位置し (図 1)、地理的要因も併せて他国の分割など困難な時代が続いた。さらに、第二次世界大戦の勃発に加え独 Nazi による Auschwitz や Getto の史実なども重なり、長年の苦難に対し適切な言葉を見つけれない。

一方、科学領域でキュリー夫人や、芸術領域で著名な作曲家ショパンなど、歴史に貢献した著名人も少なくない。

首都ワルシャワ (Warsaw (英), Warszawa (ポ)) のフレデリック・ショパン国際空港に到着し、20 分でワルシャワ中央駅へ、駅から 10 分で国際会議場に着く。市内 4 カ所から会場へシャトルバスが巡回してい

た (図 2)。

## 2. 第 17 回 WONCA 欧州大会

大会の会場は Warszawskie Centrum EXPO XXI であり、その特徴は数千人規模の会場を 2 つ有することだ (図 3)。一つは昼食や懇親会に、他方は四隅に小さな部屋を設置し、発表やワークショップに使用されていた (図 4, 5)。

当大会のテーマには科学や芸術が含まれるため、興味深い内容の演題が集まることに、数日間にわたり、多会場で教育講演や一般演題、ワークショップなどが同時進行していた (図 6)。

外国からの参加者は 3641 人に至り、72 の国と地域から参集した。事務局から特別にデータを頂き、表 1 にまとめた。スペインやクロアチア、ポルトガルの参加者が多い。ポルトガルのリスボンでは、第 19 回大会が 2014 年に開催されるため、注目されている。

アジアからの参加について、日本は 1 名、中国は 13 名、韓国は 16 名であった。印象的に感じたのは、韓国使節団がマイクロバスをチャーターし宿泊と会場とを往復していたこと。知己の先生に伺うと、韓国では近年、外国 WONCA への参加者が増えているようだ。

## 3. 大会の特徴

教育講演では、各国の PC 医療の特徴や医学教育的な演題の頻度が高い様子であった (図 7, 8)。ヨーロッパ諸国における医療制度の比較検討は、関心が高い。どのような切り口でデータを集めリサーチするかが、重要なのである。

演題は口演 364, ポスター 480 と数多く、バラエティ

著者連絡先 板東 浩 (ばんどう ひろし)

きたじま田岡病院/徳島大学

(〒770-0943 徳島市中昭和町 1 丁目 61 E-mail: pianomed@bronze.ocn.ne.jp)

受付日: 2011 年 10 月 12 日, 受理日: 2011 年 10 月 14 日



図 1



図 2

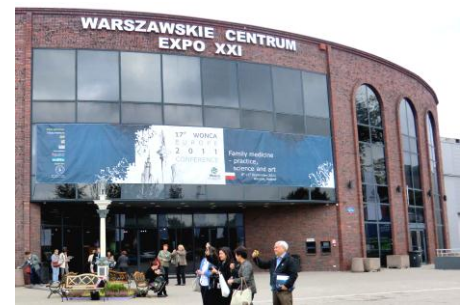


図 3



図 4



図 5



図 6

**Table 1. Participants & Country**

Country	No.	%	Country	No.	%
Spain	1048	28.78	Austria	26	0.71
Croatia	286	7.85	Romania	24	0.66
Portugal	252	6.92	Belgium	22	0.6
Netherlands	214	5.88	Bosnia/Herzeg	17	0.47
Greece	162	4.45	Italy	16	0.44
Turkey	151	4.15	Korea,	16	0.44
Slovenia	90	2.47	Canada	15	0.41
Montenegro	81	2.22	Philippines	15	0.41
United Kingdom	70	1.92	Denmark	14	0.38
Switzerland	61	1.68	Kenya	14	0.38
Serbia	57	1.57	Thailand	14	0.38
Norway	52	1.43	China	13	0.36
Ireland	48	1.32	Malta	13	0.36
Finland	41	1.13	Germany	12	0.33
Polska	41	1.13	Sweden	12	0.33
Czech Republic	35	0.96	Slovakia	11	0.3
Bulgaria	33	0.91	Ukraine	11	0.3
France	31	0.85	United States	11	0.3

に富む内容だった (図 9).

筆者は、医学と芸術のカテゴリーで、音楽療法の研究発表を行った (図 10).

このたびの大会で well-organized と感じたのは、会場の設営である。ポスター会場に隣接して、欧州 WONCA に関わる組織や製薬会社などを含む数多くのブースが設置されていた。特に賑わっていたのは、18 回のウィーンや 19 回のポルトガルのブースであった (図 11).

さらに、ポスターやブースのエリアに隣接して、数多くの参加者が集いコーヒーを飲みながら歓談する広いスペースが用意されている (図 12)。小さなテーブルの周りで数人が歓談できるように工夫され、素晴らしいアイデアといえよう。ここは昼のランチや夜の懇親会にも、最大限に有効活用されていた。

予期していた通り、ここで、従来いろいろとお世話になった WONCA 前会長の Prof. Weel (Radboud 大学, オランダ) とともに再会することができた (図 13).



図 7

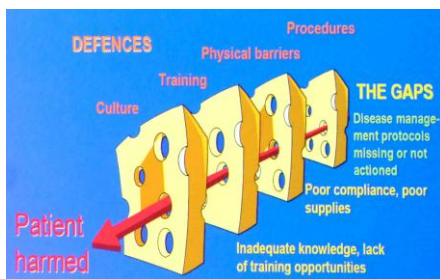


図 8



図 9

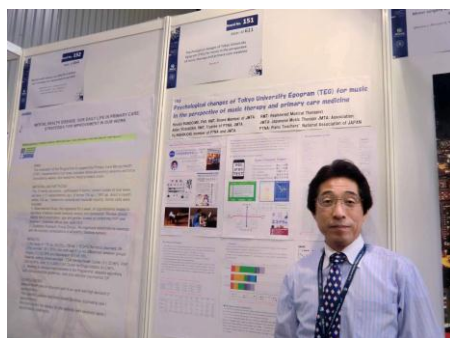


図 10



図 11



図 12



図 13

実は、このような場所の設置こそが、国際学会でネットワークを広められるポイントではないだろうか。ポスターやブースで人々が出会い、近くでコーヒーを啜りながら交流を深められる。小さなテーブルの上で、必要な図表を示したり、コンピュータ画面で説明した

り。このような出会いから、将来の展開や共同研究などにも発展していくものだ。

ほかには、筆者が以前に欧州 WONCA でレポートした、医学生や若い研修医たちがマネジメントを行っている「Vasco Da Gama Movement」も、順調に育ってきているように思えた。

### まとめ

2011年9月、欧州 WONCA がワルシャワで開催され、外国から 3600 余名の参加をみた。テーマの設定が良く、幅広い発表がみられ、会場設営にも工夫がなされ、意義深い大会だったと感じた。欧州 WONCA では若年医師の活動も広まり、さらなる発展が期待される。